



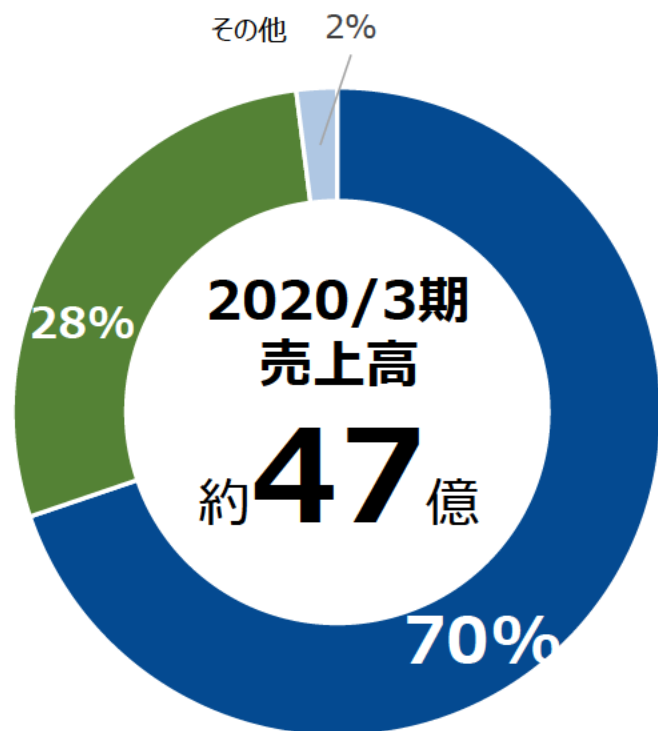
株式会社ゼネテック
2020年3月期
決算説明資料

証券コード：4492

1. 2020年3月期 決算	P03
2. 2021年3月期 業績見通し	P11
3. 中長期成長戦略	P13
4. 参考資料	P16

製造業向けに主に2つの事業展開で課題解決ソリューションを提供

売上高構成



事業内容

システム受託開発事業

ソフト/ハードウェア一体型開発
仕様分析・検討、基本設計から
製造までシステムの一括受託開発

技術力
開発力

エンジニアリングソリューション事業

CAD/CAM、
製造現場の省力化・省人化を実現
各種システム、シミュレーションソフトパッケージ
等の輸入販売、導入・技術支援、サポート、
教育・研修等

販売力
サポート力

その他

防災用アプリケーション提供事業 (ココダヨ)

自社開発商品

2020年3月期 決算



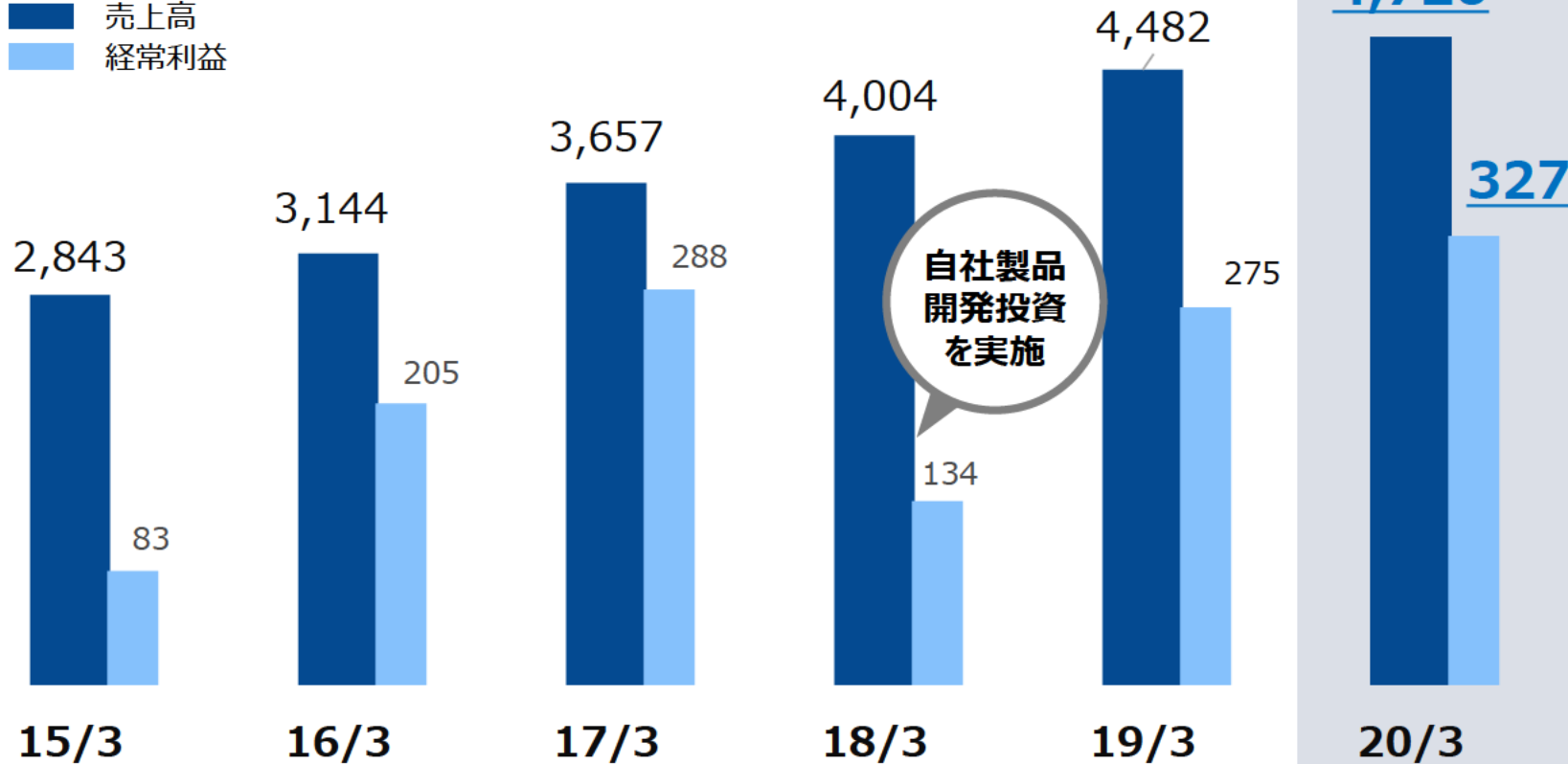
前期比増収、大幅増益

(単位：百万円)

	2019年3月期		2020年3月期		前期比 増減率
	実績	対売上 高比率	実績	対売上 高比率	
売上高	4,482	-	4,720	-	+5.3%
売上総利益	1,509	33.6%	1,609	34.0%	+6.2%
販管費	1,250	27.9%	1,273	26.9%	+1.8%
営業利益	259	5.8%	335	7.1%	+29.3%
経常利益	275	6.2%	327	6.9%	+18.7%
当期純利益	179	4.0%	212	4.5%	+18.4%

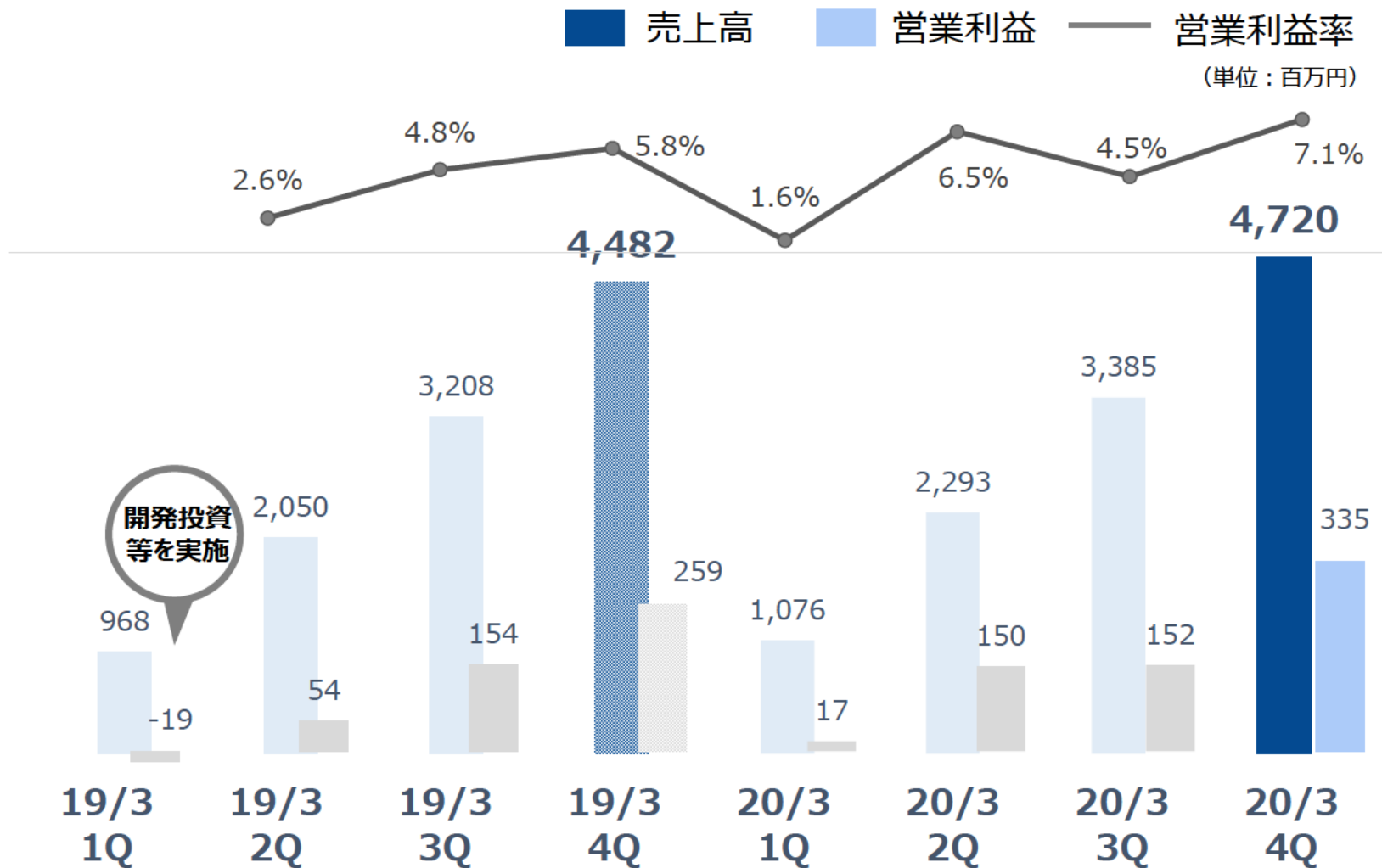
着実な事業成長

(単位：百万円)

■ 売上高
■ 経常利益

* 2018/3期以降は連結決算

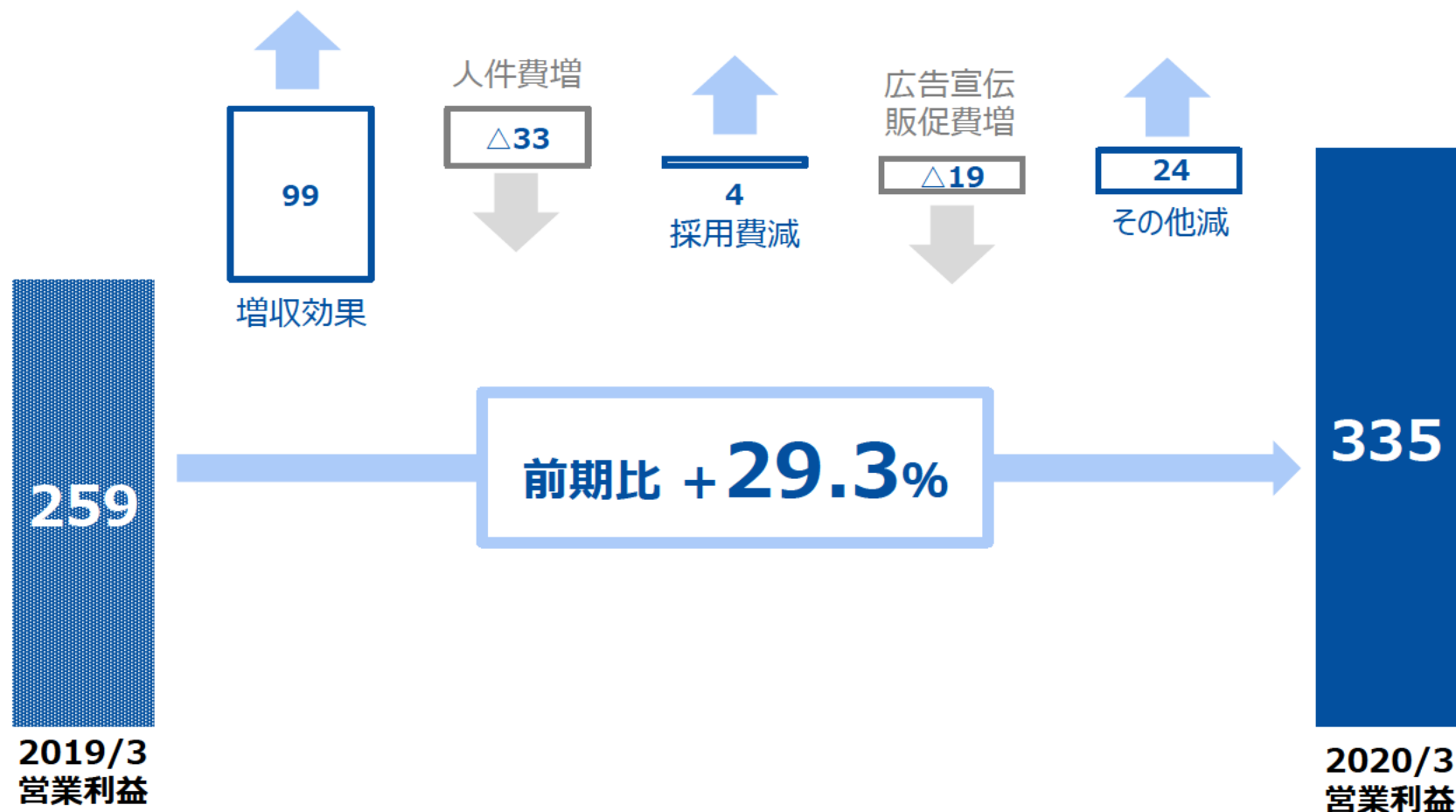
各四半期においても順調に業績成長を達成



* 2019年3月期は参考値

人材投資、売上アップのための広告宣伝・販促費用増加も 各種コスト削減と増収効果で前期比大幅増益

(単位：百万円)

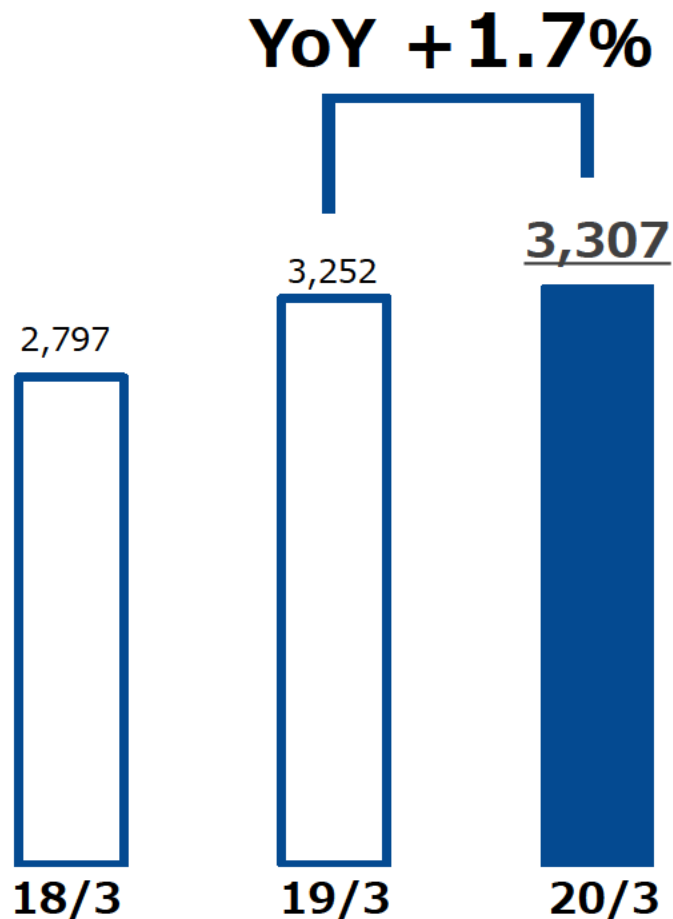


2020年3月期 セグメント別業績

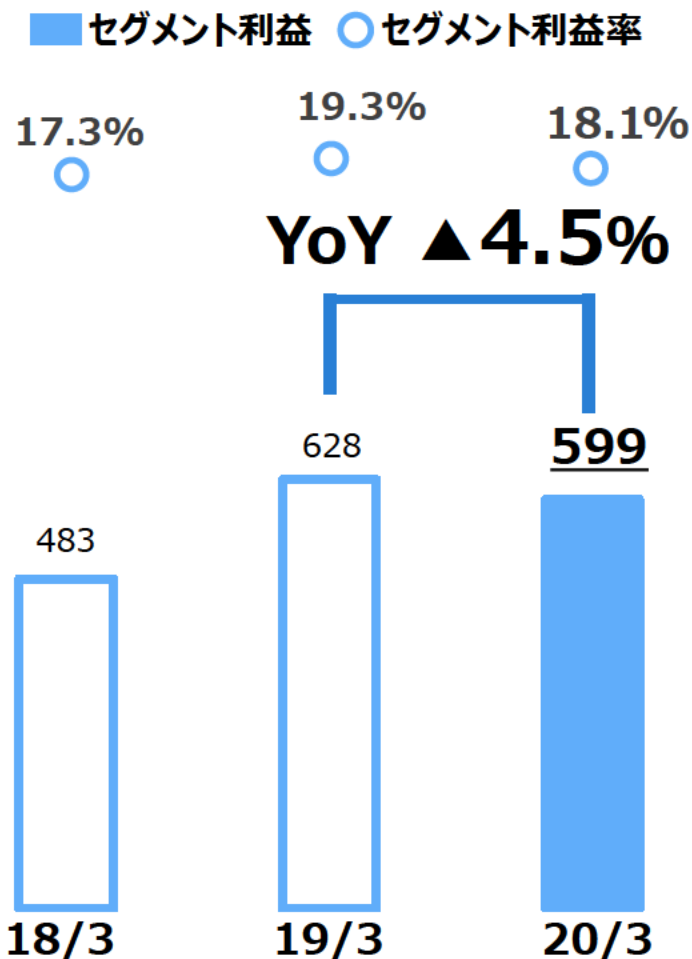


- 半導体製造装置向けの量産品ハードウェア開発の落ち込みをオートモーティブ分野、デジタル家電分野等で補いきれず売上高は減少、それにともない利益も前期比減となる

売上高

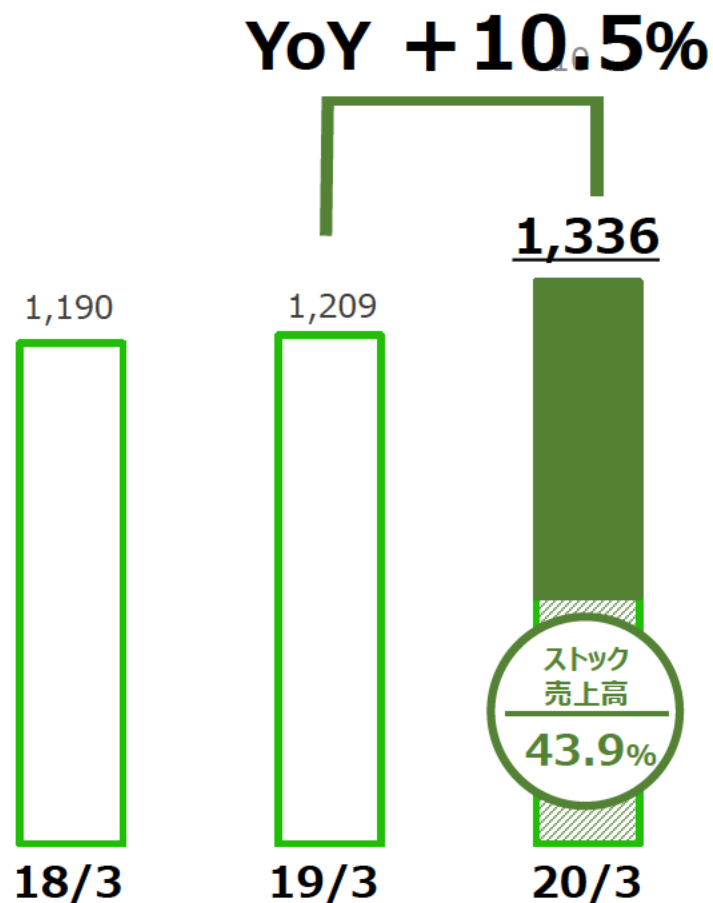


セグメント利益・率推移

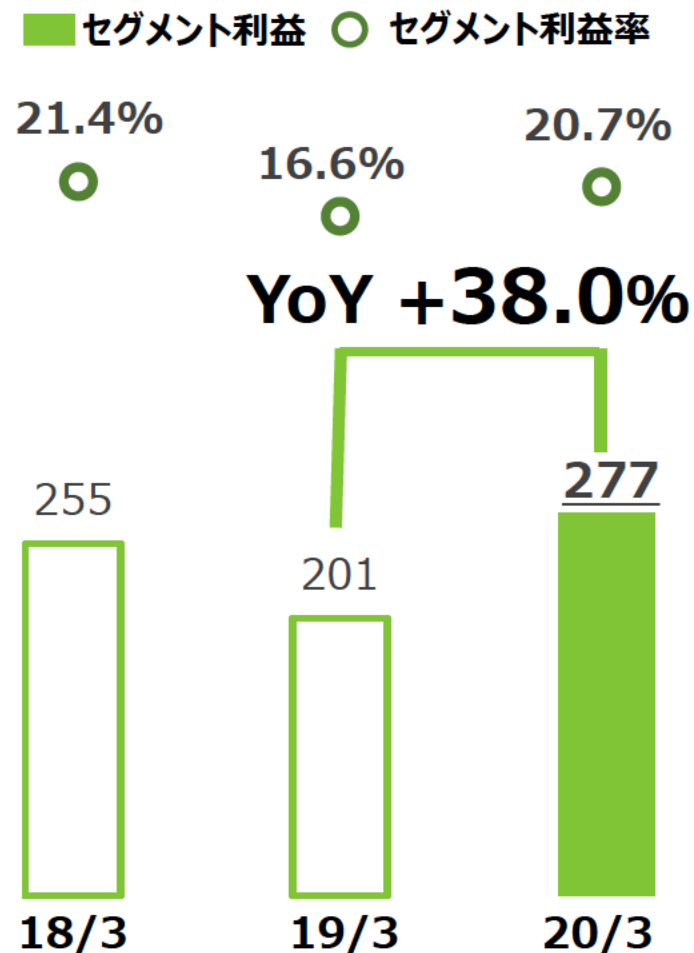


- 主要販売代理店への効果的な販売施策の実施により好調に推移
- スtock売上高は約45%を推移

売上高



セグメント利益・率推移



2021年3月期 業績見通し



2021年3月期の連結業績予想につきましては、
新型コロナウイルス感染症の拡大が当社グループに与える影響の
不確実性が高く、未定としております。

今後、連結業績予想を合理的に算定することが可能となった時点で、
速やかに開示する予定です。

システム受託開発事業

現状の開発活動に大きな影響はないものの、主力開発分野の一つであるオートモーティブ分野における世界的な自動車販売需要の減退がメーカーのシステム開発投資に与える影響見通しが困難

エンジニアリング ソリューション事業

展示会の中止やテレワークの増加に伴い、販売代理店を含む販売活動が全般的に停滞しており、緊急事態宣言の解除に伴う回復ペースが見通せない状況

中長期成長戦略



コロナショックにより製造業においては**デジタルシフトが加速**

当社の既存事業をさらに強化

ゼネテックは製造業のデジタル化変革を支援する取組みをすでに開始しており、
中長期的視点で見れば、ビジネスチャンスが拡大

CASEを中心とした 車載関連領域

自動車産業は
100年に一度の大変革の時代
電動化、自動運転、
コネクティッド、
CASEといった分野に
投資集中

ファクトリー オートメーション領域

コロナショックを機に
人との接触リスク低減のため
省人化・省力化対応へ投資、
ロボティクスやデジタルツインなど
FA領域への投資集中

製造業のデジタル化を推進する
テクノロジーや情報インフラも整備され一層加速

DX

IoT

AI

クラウド

5G

製品メーカー・製造業の 生産性向上へのベストソリューションパートナー

デジタルトランスフォーメーション（DX）化を推進
ICTとIoT、ネットワークを駆使し、製造現場の生産性を向上



車載関連において、CASEへの投資が大幅拡大
製造業における生産性向上に向けたデジタル化、省力化・IoTソリューションの需要拡大

參考資料



会社名	株式会社ゼネテック
本社	東京都新宿区新宿2-19-1
設立	1985年7月1日
資本金	5千万円
役員	代表取締役社長 上野 憲二 取締役 八戸 雅利 取締役 金井 登志雄 社外取締役 大野 貴史 常勤監査役 篠原 裕一郎 社外監査役 田中 俊平 社外監査役 水谷 翠
従業員数	247名（2020年3月31日現在）
事業内容	システム受託開発事業 ：ソフトウェア/ハードウェアシステム開発事業 エンジニアリングソリューション事業 ：3次元CAD/CAMシステム販売事業 その他事業 ：防災用アプリケーション提供事業（ココダヨ）

**想像力・創造力・技術力を駆使して
安心・安全な社会づくりに寄与すると共に
社会の継続的発展と成長に貢献する**



General Engineering × High Technology

最先端の技術と、それを追求し続ける情熱で
世の中の製品商品開発に新たな付加価値を提供し続ける
リーディングカンパニー

Good Communication

お客様、従業員とのコミュニケーションを重視し、
お客様のお困りごとや課題に対するソリューションの提案と解決を実現

時代の最先端と変化をとらえ成長を続けるゼネテック

システム受託開発事業



市場トレンド



ポケットベル
携帯電話



車載関連

2013年～ 半導体製造装置

2000年～ デジタル家電

1995年～ 車載関連

1991年～ 携帯電話

1985年～ ポケットベル

通信関連で
事業拡大

車載関連分野で成長加速

製造業
IoT&デジタル化

製造現場の設計・製造効率化ツールで拡大

1985
創業

1990年 3次元CAD/CAMシステム「Mastercam」日本総代理店契約
輸入販売開始

2010年 オフラインティーチングソフト「Robotmaster」 輸入販売開始

2018年 3次元シミュレーションツール「FlexSim」総代理店契約 輸入販売開始

エンジニアリング
ソリューション事業



マーケットの成長ポテンシャルが高い車載関連を中心とした、 様々な領域における豊富な開発実績

車載関連



CASE ※



インフォテインメント
(カーナビゲーション、カーオーディオ等)



先進運転支援システム(ADAS)
(ヘッドアップディスプレイ等)



デジタル家電
(テレビ、カメラ、ビデオ)



IoTプラットフォーム
(遠隔監視システム・デジタルサイネージ)



半導体製造装置

*CASEは、Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動運転)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)の頭文字を合わせたもので、自動車業界の技術変革を表す用語

世界シェアNo.1の3次元CAD/CAMシステム Mastercamの日本国内輸入元



- 約**30年**にわたり約**3500社**におよぶ製造現場への納入実績
- 製造現場に精通している当社だからこそ顧客に**最適な提案及びサポート**が可能
- 日本全国に展開する、約**500社**の販売代理店網
- 高付加価値の**5軸・複合加工**への技術対応力

* 出典: CIMdata, Inc. CIMdata is an independent research firm specializing in the NC industry.

省力化、省人化を実現する 製造業向け最適なパッケージソフトウェアの主要な商品ラインナップ



製造工場や物流倉庫
の効率化・最適化を実現する3Dシミュレーションツール（VR機能）

日本総代理店



グローバルで最も使用
されているスタンダード
な3次元CAD

認定代理店



オフラインティーチングソフトにより、ティーチング工数の最大70%の削減を実現

国内唯一の
輸入代理店

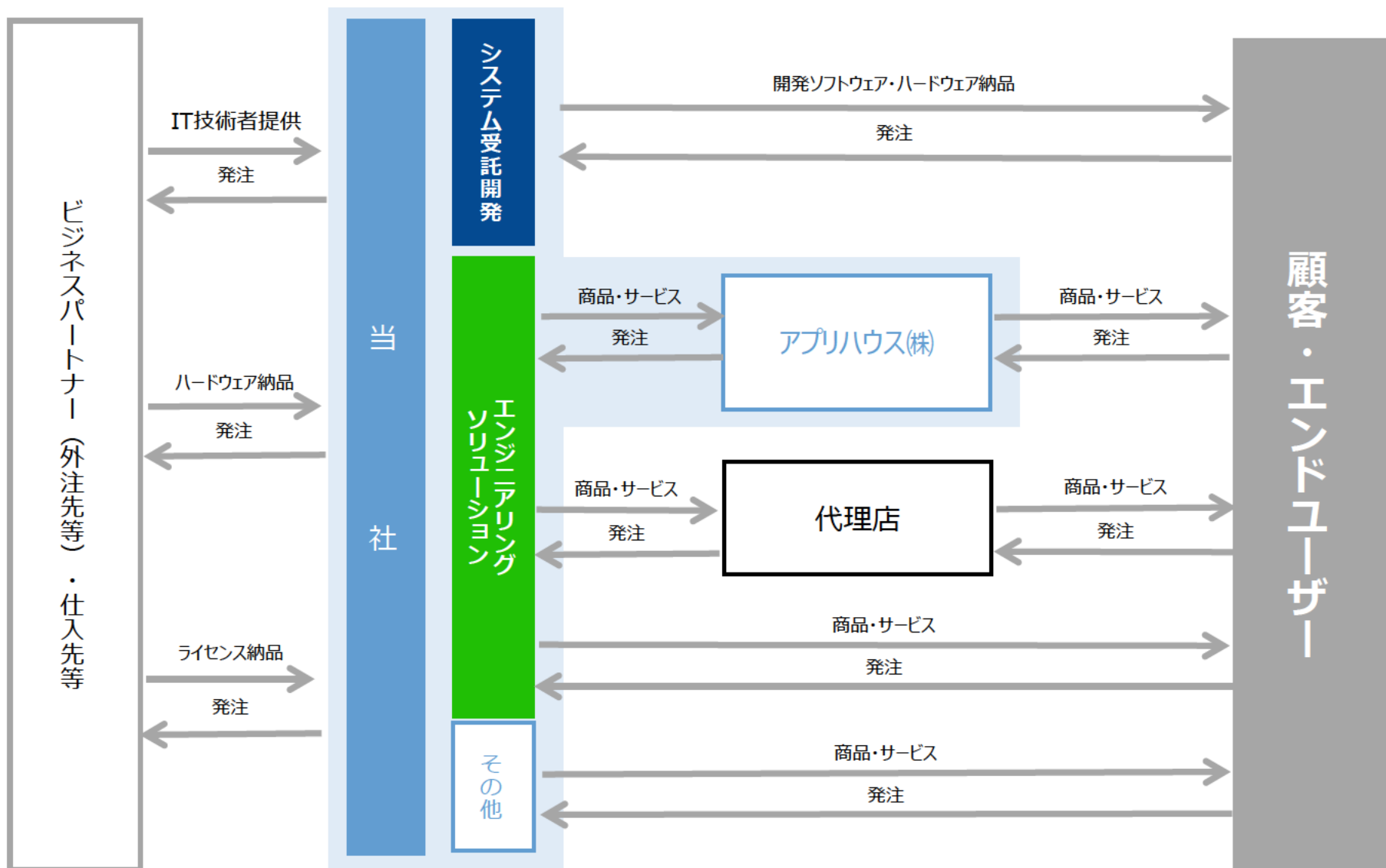


工場内の機械の稼働状況を遠隔地からモニタリングするゼネテックのIoTソリューション

自社開発
IOTソリューション

Mastercamや上記商品を組み合わせ、最適なソリューションを提供

当社グループ



* アプリハウス株式会社：3次元CAD/CAMソフトウェアMastercamの2次販売代理店

システム受託 開発事業

- 仕様分析
- 基本設計
- 詳細設計実装
- 総合試験



一括受託型

エンジニアリング ソリューション事業

- ライセンス販売……………新規、増設（売り切り）
- ●以下ストック型●●●
- ソフトウェアメンテナンス・年間契約
- 技術サポート……………年間契約
- ポストプロセッサ開発…リピート
- ユーザートレーニング…導入時、定期的
- カスタマイズ……………スポット的

ストック型

先進機能を追求しつづけることで 蓄積される技術・開発力と広がる事業フィールド



* 組み込みソフトウェア：エンベデッドシステム内に実装されたマイクロプロセッサ上で動作するソフトウェア

* エンベデッドシステム：カーナビやスマートホンやテレビのように機器に組み込まれて、その制御をマイクロプロセッサで行うシステム

顧客の生産拠点、代理店に近い立地により 顧客満足度向上に直結する体制づくり

- 本社、支店、営業所
- トレーニングセンター
- 開発センター
- サポートセンター

広島事業所

- ・広島開発センター
- ・西日本支店・広島営業所

福岡事業所

- ・福岡開発センター
- ・西日本支店
- ・福岡トレーニングセンター

大阪事業所

- ・大阪開発センター
- ・近畿支店
- ・大阪サポートセンター
- ・大阪トレーニングセンター

名古屋事業所

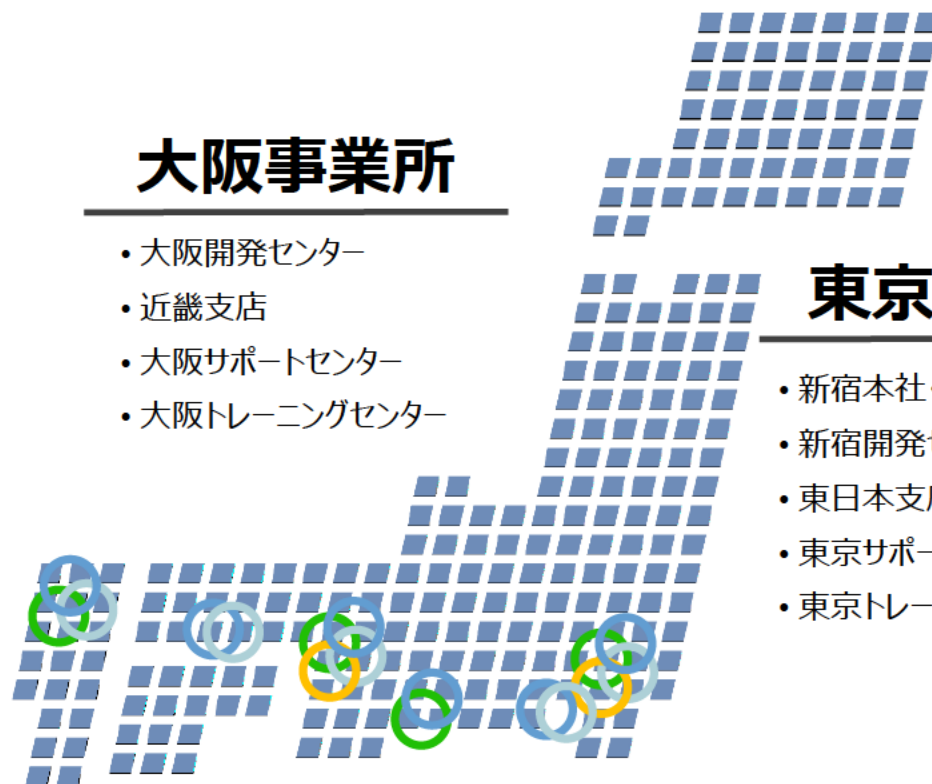
- ・名古屋支店
- ・名古屋トレーニングセンター

東京事業所

- ・新宿本社・本社分室
- ・新宿開発センター
- ・東日本支店
- ・東京サポートセンター
- ・東京トレーニングセンター

新横浜事業所

- ・YDC新横浜開発センター
- ・YDCサテライトオフィス



(ご参考) B/Sサマリー



	2019年 3月期	2020年 3月期	増減額
流動資産	1,746	2,230	+484
現金・預金	675	1,123	+448
売掛金	677	874	+197
仕掛品	45	55	+10
未収入金	225	22	▲203
その他	124	156	+32
固定資産	471	461	▲10
有形固定資産	85	75	▲10
無形固定資産	13	9	▲4
投資その他資産	372	376	+4
資産合計	2,217	2,691	474

	2019年 3月期	2020年 3月期	増減額
流動負債	854	700	▲154
買掛金	351	240	▲111
未払金	126	117	▲9
賞与引当金	146	167	+21
未払法人税等	66	48	▲18
その他	165	128	▲37
固定負債	419	353	▲66
退職給付に係る負債	284	278	▲6
社債	125	75	▲50
長期借入金	10	0	▲10
純資産合計	943	1,637	+694
資本金	50	50	0
資本剰余金	-	456	+456
利益剰余金	936	1,143	+207
その他	▲43	▲12	+31
負債純資産合計	2,217	2,691	474

	2019年 3月期	2020年 3月期	増減	主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	227	61	▲166	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前当期純利益327百万円、未収入金の増減額202百万円などの資金増加 ● 売上債権の増減額△228百万円 ● 仕入債務の増減額△107百万円 ● 法人税等の支払額132百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	▲103	▲49	54	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期預金の預入による支出32百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	▲168	403	571	<ul style="list-style-type: none"> ● 株式上場に伴う自己株式の処分による収入487百万円
現金及び現金同 等物の期末残高	451	867	416	

• 将来の見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

IRに関するお問い合わせ先 : IR@genetec.co.jp